

株式会社小坂橋建設

創業50年を迎えた総合建設会社。毎年積極的にインターンシップを受け入れており、若手人材の採用に力を入れている。鹿角での仕事が少なくなる冬季は、支店のある宮城と行き来することも。

都会を知ったから
こそ気づいた
鹿角の居心地の良さ

小坂橋●小坂橋建設は、2016年に創業50周年となりました。鹿角で誕生して、今では宮城にも支店があります。建築業はどうしても冬場の仕事が少なくなってしまう

ます。特に鹿角は雪が深いので、その傾向が顕著で…。それで宮城へと進出するようになりました。
熊谷●私は2009年にサンテックを立ち上げました。医療機器やアミューズメント機器に使われる板金加工を行っています。
小坂橋●ご自身で会社を興さ

れたのですね。私は父から会社を引き継ぎました。ただ、実は長く鹿角を離れていました。大学は千葉、就職は宮城で、鹿角に帰ってきたのは卒業から13年後です。
熊谷●私もUターン組ですよ。東京に18年住んでいて、家庭の事情で仕方なく戻ってきました。最初こそ「いつか東京に戻

てやる!」と思っていましたが、住んでみると不思議と居心地が良くて、1年後にはすっかり戻る気はなくなっていました。きっと鹿角が性に合っていたのだでしょうね。
小坂橋●同じUターン組でしたか! 私はいずれ親や地元に戻りたいとは思っていません。恩返しはしたいとずっと思っ

株式会社小坂橋建設
代表取締役社長
小坂橋広吉

対談
05

株式会社サンテック
代表取締役
熊谷正志

会社の、鹿角の次世代を担う
社員への願い

熊谷●一度外に出ると、間違いなく視野が広がりますね。でも、出て行く人には、Uターンという選択肢もあると覚えておいてほしいです。私のように、戻ってみて初めて地元の良いところに気づくということもありますから。
小坂橋●そうですね。鹿角は暮らしを楽しめる場所だと思えます。自然が豊かなので、子どもとキャンプに行ったり、カブト虫を捕まえたりと、趣味が広がりました。

会社が第二の家族であるように

小坂橋●建設業界では、今後5年でベテランの技術者がほとんど引退してしまうと言われてます。ただでさえ震災で全体数が減っているのに、若手社員への技術の継承が急務ですね。教

大切なことをキャッチできる
人間性の豊かな人に



1 お二人ともUターン組ということで意気投合。一度地元を出たからこそ鹿角の良さに気づいたという点が共通していました。2 小坂橋さんが断熱材を見せてくれました。ガラスを原料とした繊維なのだそう。



株式会社サンテック

金融機関、医療機関、アミューズメント施設等で使われる機器の板金加工を手がける。機械による自動化にも積極的に取り組んでおり、今後は組み立て、塗装と事業領域を拡大させていく予定。

えてもらうのを待っているのではなく、「ここを教えてください」と技術を盗むくらいの勢いで学んでほしいと思っています。
熊谷●学ぶ意欲が高い社員がいると、周りに影響を与えるのでありがたいですね。もうすぐ新しい機械を導入するのですが、いくら機械化が進んでも、動かすのは人です。人の仕事がなく

なることはありませんよ。
小坂橋●妻が総務を務めているのですが、社員たちは何かあると、まずそこで話すようですよ。妻を通して仕事の質問が届くことも…。直接言ってくればと思っこともありますが(笑)、悩みや心配事を気軽に話せる環境はこれからは大切にしたいですね。

熊谷●建設業もそうだと思いますが、小さなミスが怪我につながることもありますよね。ですから、プライベートなことでも、何か気になっていることは話せる環境を作っておきたいと思っています。まずはのびのび、安心して働ける会社に、と。
小坂橋●そうですね。会社が「第二の家族」のような存在になればと思っています。もちろん、しっかりと自分の家族を大切にすることが大前提ですが、社員には、男性でもしっかりと子育てをするようにと伝えているんです。仕事を早く切り上げてPTAに参加したり、有給を取って子ども

のスキー大会を観に行ったり、そうしたことが気兼ねなくできるような雰囲気を作っています。育児を頑張っている社員が多いですよ。
熊谷●それは素晴らしいですね。社員には、人間性豊かな人になってほしいと思っています。インターネットで簡単に情報が手に入るようになりませんが、本当に大切な情報は、人伝いにしか流れないと私は信じています。その情報を手に入れられるかどうかは、最後は人間性ではないかと。ですから、その感性を育むことのできる会社でありたいですね。鹿角は情緒あふれる場所ですから、ぴったりの土地だと思います。



対談にご登場いただいた全20社のドキュメンタリー映像を公開しています。